

「学生の双方向交流の推進に関する政策について」

文部科学省高等教育局学生・留学生課 成相圭二氏

配布資料に基づき、施策説明が行われた。

(1) 留学生交流に係る現状データ

○世界全体の外国人留学生

- ・世界の留学生数は 2025 年に 770 万人が予想される。

○国内の外国人留学生

- ・日本語教育機関の学生数が急増。出身国 1 位 中国、2 位 ベトナム、3 位 ネパール
- ・学部・短大は、ゆるやかな伸び。一方、専修学校は、顕著な伸び
- ・出身地別の特徴 アジアは人文・社会科学系多数。北米・欧州・大洋州は短期が多く人文系が多い。中東・アフリカ・中南米は学位取得型。工・農が多い。

○日本人学生の海外派遣

- ・2012 年から 14 年にかけてやや減少。中国への減少幅が大きい
- ・大学等が把握している日本人学生の派遣：2009 年から 15 年まで順調な伸び 84,456 人

(2) 留学生政策の動向について

○留学生政策

- ・派遣：真のグローバル人材育成、日本のプレゼンス・影響力の向上
受入：諸外国への知的国際貢献、日本の大学の国際課、ネットワーク化、日本
- ・企業の世界進出や貿易の促進等、経済発展に資する
- ・日本人学生の派遣&留学生受入れ数倍増計画：閣議決定

○外国人留学生向け より積極的な情報発信の必要性

- ・外国人学生の声：申込みに関する情報不足 43.7%、個々の大学の情報不足 33.3%、
- ・各大学の受け入れに関しては、留学生にもアドミッション・ポリシーの明確化を。また申し込みや各大学に関する情報提供の必要性あり。例) 英国オックスフォード大

○海外における日本語教育の現状

- ・300 万人強でやや減少。日本への関心がある層は存在

○留学生の卒業後の進路志望（複数回答）

- ・「日本において就職希望」65% 最多 「出身国において就職・進学」26.4%
- ・企業の留学生ニーズ増大、採用は日本人と同様が一般的。留学生の希望職種と採用された職種のミスマッチも今後の課題。

(3) 留学生交流の推進に係る施策（平成 29 年度予算）等

○外国人留学生の受入

- ・263 億円（前年度+3 億円）
- ・奨学金制度 前年度並み予算。双方向は減少
- ・29 年度予算では就職支援が新規。「留学生就職促進プログラム」として 12 大学を拠点として実施。日本企業への就職を支援し、現状 3 割の就職率を 5 割に。

○日本人学生の海外留学

- ・大学等の海外留学支援制度 H29 81 億円（前年度比△7 億円）

(4) 参考

○学生等の海外留学生における安全管理

- ・最近の治安情勢を踏まえ、1) 学内の体制整備 2) 学生への啓発が必要

○大学の国際化、学生交流の促進に伴う対応

- ・多用な文化的・宗教的背景を持つ外国人留学生への配慮
- ・犯罪に留学生を関与させないための周知・指導

説明後の質疑

質問：初級日本語レベルのアウトソーシング化が検討されていると聞いた。実現されると様々な問題が起こることも考えられるが、どのような状況か。

文科：そのような話は聞いていない。大学における一つの考え方だと思うが、課題があれば良し悪しを含めて検討してもらいたい。

以上